

CPR News Letter No.105

監獄人権センター (Center for Prisoners' Rights) 通信

〒 160-0022 東京都新宿区新宿 2-3-16 ライオンズマンション御苑前 703
TEL&FAX:03-5379-5055 E-mail:cpr@cpr.jca.apc.org URL:http://www.cpr.jca.apc.org
年会費 (1口): 一般 5000 円 / 学生 3000 円 郵便振替口座: 00100-5-771629 監獄人権センター

お知らせ *2018年6月14日より、監獄人権センターの住所(郵便送付先)が上記に変更になりました。
& ご注意 *監獄人権センター宛の郵便物は、アミカス法律事務所では受け取れません。



よりよい処遇とは、よりよい刑務所生活とは何だろう。

SAMPLE

資料

刑事施設等における 新型コロナウイルス感染症の発生と感染防止対策 第三報

監獄人権センター相談部

1. 刑事施設等における感染事例

2021年1月15日現在、日本国内における新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染者は309,214例[*]。刑事施設、警察留置施設においても引き続き、多数の感染事例が報道等を通じて発表されている(2020年4月末日までの感染事例は102号、同年7月末日までの感染事例は103号に掲載)。

[*]新型コロナウイルス感染症の現在の状況と厚生労働省の対応について(令和3年1月15日版)

●名古屋刑務所

【10月1日】40代の男性刑務官1名。9月29日に発熱と咳の症状。PCR検査で30日に陽性確認。刑務作業の指導を担当。

【10月15日】80代の男性受刑者1名と50代の男性刑務官1名。受刑者は内臓の疾患で外部の医療機関に通院していた。10月13日に発熱し14日に陽性確認。感染確認の50代男性刑務官は同受刑者の通院に同行の職員3名のうちの一人。10月10日に咳と発熱、13日にPCR検査を受け14日に陽性確認。

中日新聞「【愛知】男性刑務官が感染 名古屋刑務所」(2020年10月2日)
福井新聞「10/15コロナ速報 名古屋刑務所(愛知県みよし市)で刑務官と受刑者の計2人感染」(2020年10月15日)

毎日新聞「新型コロナ 名古屋刑務所 男性2人感染 受刑者と刑務官」(2020年10月16日)

●大阪刑務所

【10月10日】60代の男性刑務官1名。9月30日に39度台の発熱、10月7日に肺炎の症状があり入院。9日に陽性確認。症状は軽症～中等症。大阪府内の飲食店を複数回利用。

伊勢新聞「新たに2人感染 60代男性刑務官ら 新型コロナウイルス三重県内」(2020年10月11日)

号外 NET伊賀・名張「県内延べ536例目患者情報」(2020年10月11日)

毎日新聞「新型コロナ 新たに2人感染 /三重」(2020年10月11日)

●府中刑務所

【11月2日】60代の男性刑務官1名。倦怠感、発熱があり10月29日にPCR検査を受け11月2日に陽性確認。その後入院。

【1月3日】20代の男性刑務官1名。12月30日に発熱、喉の痛みがあり受診。PCR検査で1月2日に陽性確認。受刑者の食事、入浴の監督を担当。

東京新聞「【東京都のコロナ感染速報・2日】三宅村で初の感染者、高輪署、小岩署の警察官、新宿区の小学生、三鷹市の園児らも」(2020年11月2日)
読売新聞「府中刑務所の刑務官が感染 新型コロナ=東京」(2020年11月3日)

日刊スポーツ「府中刑務所の刑務官感染、接触の受刑者は単独居室へ」(2021年1月3日)

産経デジタル「府中刑務所の刑務官が感染 20代男性」(2021年1月3日)

●札幌刑務所

【11月8日】30代の男性刑務官1名。発熱し11月2日に受診、嗅覚に異常。PCR検査で6日に陽性確認。

【11月11日】30代の男性法務技官1名。受刑者の医療業務を担当。

朝日新聞「北海道で新たに153人感染4日連続100人超に」(2020年11月8日)
読売新聞「札幌大で25人感染…学外での懇親会に参加、学生ら学内立ち入り禁止に」(2020年11月11日)

●大阪医療刑務所

【11月13日～19日】職員1名(詳細不明)

法務大臣閣議後記者会見の概要(令和2年11月20日(金))

●沖縄刑務所

【11月14日】60代の男性刑務官1名。

沖縄タイムス「忘年会は「感染防止に注意」 会食で感染続く…14日は沖縄で27人感染」(2020年11月15日)

●月形刑務所

【11月18日】男性受刑者4名(40代・関節痛と発熱 /40代・鼻閉と咽頭痛 /30代・味覚障害、咽頭痛、頭痛、倦怠感 /40代・鼻閉と下痢)。30代の男性刑務官1名、無症状。受刑者4名は同じ工場で、陽性確認の刑務官が担当していた。

【11月20日】30代の男性刑務官1名、発熱、頭痛。

【11月21日】40代の男性受刑者1名、発熱(38.6℃)、咳。医療機関に入院。

【11月25日】50代の男性受刑者1名、発熱、咽頭痛。医療機関に入院。

北海道新型コロナウイルス感染症対策本部指揮室:新型コロナウイルスに関連した患者の発生について(2020年11月19日)

FNN「「月形刑務所」でクラスター…障害者支援施設は計95人へ急拡大 233人北海道 施設・病院広がる」(2020年11月18日)

北海道新型コロナウイルス感染症対策本部指揮室:新型コロナウイルスに関連した患者の発生について(2020年11月21日)

北海道新型コロナウイルス感染症対策本部指揮室:新型コロナウイルスに関連した患者の発生について(2020年11月22日)

北海道新型コロナウイルス感染症対策本部指揮室:新型コロナウイルスに関連した患者の発生について(2020年11月26日)

●宮崎刑務所

【12月12日】30代の職員1名。11日にPCR検査実施。受刑者の物品管理を担当していたが受刑者との接触なし。

宮崎日日新聞「【速報】新型コロナ 宮崎刑務所職員の感染確認」(2020年12月12日)

朝日新聞「新たに7人 刑務所職員も」(2020年12月13日)

●横浜刑務所 *追記: 2021年1月22日現在の感染者 計102人

【12月17日】60代の労役の男性1名。中等症で入院。

【12月15日】30代の男性刑務官1名。

【12月21日～27日】職員3名(詳細不明)

【12月28日～1月3日】職員1名(詳細不明)

【1月8日】男性受刑者2名。これまでの感染状況も含め、横浜市がクラスターと認定。

【1月12日】20代、40代の男性刑務官2名と30代～70代の男性受刑者25名。約60名に実施したPCR検査で判明。重症者なし。受刑者25名は全員同じ工場。刑務作業と面会を一時休止した。今後、全ての受刑者に抗原検査を行う予定。

【1月15日】30代男性刑務官、20代男性刑務官、10代女性刑務官。重症者なし。

カナロコ【新型コロナ】横浜刑務所、60代の男性収容者が感染 中等症で入院（2020年12月17日）

法務大臣閣議後記者会見の概要（令和2年12月18日（金））

法務省関連の新型コロナウイルス感染症感染状況（令和2年12月27日現在）

法務省関連の新型コロナウイルス感染症感染状況（令和3年1月3日現在）
カナロコ「横浜は2人死亡、244人感染 患者の区別発生状況も更新」（2021年1月8日）

読売新聞「横浜刑務所で刑務官と受刑者27人感染…所内の感染者は計35人に」（2021年1月12日）

NHK「横浜刑務所 新たに27人感染」（2021年1月12日）

カナロコ「横浜刑務所で新たに27人感染 受刑者ら、計35人に」（2021年1月12日）

カナロコ「横浜刑務所で新たに刑務官3人陽性 感染者38人に」（2021年1月15日）

●岡崎医療刑務所

【12月25日】50代の男性刑務官1名。受刑者作業場の監督を担当。

中日新聞「愛知265人感染」（2020年12月26日）

●加古川刑務所

【12月26日】30代の男性刑務官1名。23日に発熱、24日にPCR検査実施。工場を担当。

神戸新聞「加古川刑務所の刑務官がコロナ感染 濃厚接触者なし」（2020年12月26日）

●喜連川社会復帰促進センター

【1月3日】60代、40代の男性職員2名。

毎日新聞「新型コロナ 新たに72人感染 宇都宮で38人 刑務所職員も／栃木」（2021年1月4日）

●青森刑務所

【1月7日】50代の男性刑務官1名。刑務作業等を担当。12月25日の勤務以降は出勤していない。県外の陽性者と接触があり健康観察中だった。

デーリー東北【新型コロナ】青森刑務所の男性職員が感染（2021年1月7日）

東奥日報「県外関連感染5人、学校クラスターは収束へ」（2021年1月7日）

東奥日報「男性刑務官がコロナ感染／青森刑務所」（2021年1月8日）

●岐阜刑務所

【1月7日】40代の男性刑務官1名。被収容者数名を単独室に収容した。

福井新聞「岐阜県で91人コロナ感染、新たにクラスター7件 各務原市の施設で感染拡大」（2021年1月7日）

中日新聞「【岐阜】高山の80人死亡 県内91人感染」（2021年1月8日）

●麓刑務所

【1月15日】30代の男性刑務官1名。14日に陽性確認。

日本経済新聞「佐賀で最多35人感染 福岡は361人」（2021年1月15日）

●川越少年刑務所

【1月4日～10日】職員1名。（詳細不明）

法務省関連の新型コロナウイルス感染症感染状況（令和3年1月10日現在）

●千葉刑務所 *追記：2021年1月22日現在の感染者 計46人

【1月12日】30代の男性刑務官2名。管理業務を担当。接触があった職員と受刑者に検査実施。

【1月14日】20代の男性刑務官1名。夜間の巡回等を担当。

千葉日報「千葉刑務所で初のコロナ感染」（2021年1月13日）

千葉日報「千葉刑務所で新たに1人感染 【コロナ関連情報】」（2021年1月15日）

●京都医療少年院

【12月4日～10日】職員1名（詳細不明）

法務大臣閣議後記者会見の概要（令和2年12月11日（金））

●浪速少年院

【1月4日～10日】職員1名。（詳細不明）

法務省関連の新型コロナウイルス感染症感染状況（令和3年1月10日現在）

●福岡拘置所

【8月10日】30代の男性刑務官1名。8月3日、4日に発熱があり医療機関を受診したがPCR検査不要と判断された。8月1日～6日は休暇で7日に出勤、8日に嗅覚の異常。PCR検査で9日に陽性確認。被収容者の指導、監督を担当。

時事ドットコム「刑務官の感染2人目 福岡拘置所」（2020年8月10日）

NHK「福岡拘置所の30代男性刑務官 新型コロナに感染確認」（2020年8月10日）

●東京拘置所

【10月30日～11月5日】職員1名（詳細不明）

【12月21日～27日】職員5名、被収容者1名（詳細不明）

【12月28日～1月3日】職員1名（詳細不明）

【1月13日】50代の男性刑務官1名。1月5日の勤務後発熱、PCR検査で12日に陽性確認。

法務大臣閣議後記者会見の概要（令和2年11月6日（金））

法務省関連の新型コロナウイルス感染症感染状況（令和2年12月27日現在）

法務省関連の新型コロナウイルス感染症感染状況（令和3年1月3日現在）

産経デジタル「東京拘置所の刑務官感染」（2021年1月13日）

●横浜拘置支所

【11月24日】20代の男性刑務官1名。

東京新聞「<新型コロナ>神奈川県で67人感染 相模原南署で感染者計4人に 署員50人検査へ」（2020年11月24日）

●会津若松拘置支所

【1月4日】20代の男性刑務官1名。夜間巡回等を担当。1月1日まで勤務。

毎日新聞「新型コロナ 県内感染1000人超える 知事「強い危機意識」 新たに25人が陽性／福島」（2021年1月5日）

●浦添警察署

【7月30日】20代の米空軍兵1名。26日に逮捕、留置施設入所時の検温で微熱。同日釈放され、基地内の検査で陽性確認。毎日新聞「飲酒運転で検挙の沖縄米兵がコロナ陽性 基地外店舗で飲酒の可能性も」（2020年7月30日）

●町田警察署

【8月6日】20代の男性被留置者1名。8月3日に味覚・嗅覚の異常を訴えPCR検査、6日に陽性確認。

福井新聞「8/6コロナ速報_町田署と王子署で留置の男2人が感染 警視庁、取り調べ警察官ら自宅待機」（2020年8月7日）

●王子警察署

【8月6日】20代の男性被留置者1名。8月5日に胸の痛みを訴え発熱確認。6日の抗原検査で陽性確認。

福井新聞「8/6コロナ速報_町田署と王子署で留置の男2人が感染 警視庁、取り調べ警察官ら自宅待機」（2020年8月7日）

●船橋東警察署

【8月7日】30代の男性被留置者1名。8月5日の逮捕後、検温で発熱を3回確認し、病院の診察で味覚の異常を訴えたためPCR検査を行い、6日に陽性確認。感染者を収容できる別の

警察署に留置。

千葉日報「取り調べを受けた30代男性のコロナ感染判明 留置前に発熱、検査で陽性 千葉県警初」(2020年8月7日)

ANN「千葉 逮捕された男が新型コロナ感染判明」(2020年8月7日)

●松阪警察署

【8月8日】30代の留置管理課男性巡查長1名。被留置者の配食、取り調べの際の同行等を担当。濃厚接触者なし。

毎日新聞「新型コロナ 新たに17人感染 松阪署の30代男性巡查長も／三重」(2020年8月9日)

●生田警察署

【8月10日】30代の留置管理課男性巡查長1名。8月7日に発熱、接触があった知人の感染が判明したため PCR検査で10日に陽性確認。5日から休暇のため警察署内で濃厚接触者なし。

【8月15日】40代の留置管理課男性警部補1名。

【8月16日】20代の留置管理課男性巡查部長1名。

【8月19日】30代の留置管理課男性巡查部長1名。既に感染確認の署員2名と8月10日、11日に勤務。無症状。

NHK「生田署の巡查長が新型コロナ感染」(2020年8月10日)

神戸新聞「兵庫で新規感染53人 50人超は9日以来 新型コロナ」(2020年8月15日)

サンテレビ「兵庫県で37人感染 新型コロナウィルス」(2020年8月16日)

福井新聞「8/19コロナ速報 兵庫県で49人感染 生田警察署の警官も」(2020年8月19日)

●京都府警本部

【8月17日】30代の女性被疑者1名。逮捕前に微熱があり本人から感染申告。PCR検査で陽性確認し同日の逮捕状執行見送り。自宅待機後9月8日に逮捕。逮捕後のPCR検査は陰性。

毎日新聞「新型コロナ 容疑者感染、対策に苦慮 各地の留置場で問題化 府警、逮捕一時見送りのも 京都」(2020年9月11日)

●佐倉警察署

【8月23日】30代の男性被留置者1名。8月20日の逮捕後、咳の症状。21日に保健所に相談し22日に医療機関でPCR検査を受け陽性確認。

千葉日報「【新型コロナ】被收容者の感染判明 佐倉署逮捕、千葉県警で2例目」(2020年8月23日)

●結城警察署

【10月3日】30代の女性被留置者1名。結城署が9月25日に逮捕し、女性施設があるつくば署で勾留。10月2日の検査後は別の施設に移送。肺炎の症状。結城署で既に感染確認の警察官3名が逮捕に関わった。

【10月8日】30代の警備課男性巡查部長1名。陽性確認の女性被留置者の逮捕時に接触。1日の勤務以降自宅待機。6日にPCR検査を受け7日に陽性確認。

NHK「勾留中の容疑者が感染 逮捕時に感染確認の警察官と接触 茨城」(2020年10月3日)

毎日新聞「新型コロナ 新たに3人感染 県内累計671人に 茨城」(2020年10月4日)

茨城新聞クロスアイ「新型コロナ 茨城、新たに3人 1人は感染警察署員と接触があった女性容疑者 死者数訂正」(2020年10月4日)

茨城新聞クロスアイ「新型コロナ 留置場の女性感染で茨城県警待機職員40人に」(2020年10月4日)

東京新聞「茨城県で新たに5人感染 陽性の容疑者逮捕で接触した巡查部長ら」(2020年10月8日)

茨城新聞クロスアイ「新型コロナ 結城署員5人目感染 茨城県警自宅待機28人に」(2020年10月9日)

●神奈川県警本部

【10月12日】20代の留置管理課男性巡查1名。被留置者の護送を担当。9日に倦怠感、嘔吐の症状があり11日の検査で陽性確認。接触があった職員7名が自宅待機に。

神奈川県警察「県民の皆さまへ(留置管理課員の新型コロナウイルス感染について)【10月12日公表】」

カナロコ「12人の県内、1人死亡 女児や教諭、巡查ら29人感染」(2020年10月12日)

東京新聞「神奈川県で新たに29人感染 けが診察の X線撮影で肺炎の所見あり、検査し陽性の小田原市立小教諭ら」(2020年10月12日)

●警視庁原宿分室

【10月15日】10代の少年被留置者1名。13日の逮捕時に味覚・嗅覚の異常訴え PCR検査実施。14日に陽性確認。取り調べ等で接触があった職員13名が自宅待機に。

【11月12日】40代の男性被留置者1名。逮捕時の検温で発熱があり11日の検査で陽性確認。取り調べ等で接触があった職員7名が自宅待機に。

東京新聞「【東京都のコロナ感染速報15日】警視庁で留置場の少年が感染 大田区の中学生や八王子市の介護職員らも陽性に」(2020年10月15日)

東京新聞「【東京都のコロナ感染速報・12日】留置場1人、豊洲市場4人、練馬区立小教員3人ら」(2020年11月12日)

●北警察署(愛知県)

【10月26日】30代の男性被留置者1名。25日に胸の痛み訴え、検査で陽性確認。

【10月28日】40代の男性被留置者1名。26日の感染受け他の被留置者にもPCR検査を行い陽性確認。

【11月6日】50代の男性警察官1名。留置管理業務を担当。

【11月8日】30代の男性警務課職員1名。6日に陽性確認の警察官の濃厚接触者。

【11月12日】30代の男性警察官1名。看守業務を担当。

朝日新聞「北警察署員ら20人自宅待機 留置人がコロナ感染」(2020年10月27日)

日本経済新聞「愛知で51人感染 50人以上は8月下旬以来」(2020年10月28日)

朝日新聞「留置人新たに感染」(2020年10月29日)

福井新聞「愛知県で82人感染、名古屋市が半数以上 11月6日発表、岡崎市の高齢者施設でクラスターか」(2020年11月6日)

中日新聞「愛知で新たに81人感染 岡崎で70代男性死亡」(2020年11月8日)

福井新聞「愛知県143人コロナ感染、西部の県立高校生徒3人も クラスター発生の半田消防署も新たに感染者」(2020年11月12日)

●寄居警察署(埼玉県)

【10月27日】20代の外国籍の男性被留置者1名。26日の逮捕後微熱があり、PCR検査で陽性確認。接触があった署員9名を自宅待機。

産経デジタル「埼玉県警、警察官9人が自宅待機 外国人容疑者がコロナ感染」(2020年10月27日)

朝日新聞「29人感染」(2020年10月28日)

●代々木警察署

【11月14日】30代の男性被留置者1名。釈放し自宅療養、調べは在宅で。同室の男性2名にもPCR検査を実施。

東京新聞「【東京都のコロナ感染速報・14日】都バス運転手、都立高教員、代々木署で勾留中の男ら」(2020年11月14日)

●新宿警察署

【12月3日～8日】3名の男性被留置者(同室)が発熱訴え、P

CR検査で陽性確認。

【12月9日】2名の男性被留置者の感染確認。被留置者全員にPCR検査実施。

【12月11日】20代～70代の男性被留置者12名。いずれも軽症又は無症状。2名は釈放、10名は原宿署に移送。14日から留置施設を閉鎖。

【12月12日】20代の被留置者1名。

【12月13日】20代～50代の留置管理課男性警察官4名と会計課の男性主事1名。いずれも軽症又は無症状。

【12月16日】20代～70代の男性被留置者4名。20代1名が入院、他3名は無症状。いずれも9日の検査で陰性、14日の再検査で陽性確認。

【12月18日】40代の留置管理課男性巡査長1名。

東京新聞「新宿署留置所で17人が新型コロナに感染 14日から施設を一時閉鎖」(2020年12月11日)

朝日新聞「新宿署の留置場で12人感染 軽症か無症状、2人は釈放」(2020年12月11日)

NHK「新型コロナ 新宿警察署留置場で17人感染確認 新型コロナ 国内感染者数」(2020年12月11日)

東京新聞【東京コロナ速報・12日】新宿署留置施設で新たに20代男性、計33人に 中央、江戸川区の区立小学校では児童、教師ら」(2020年12月12日)

朝日新聞「新宿署員5人が感染 18人感染判明の留置施設に出入り」(2020年12月13日)

毎日新聞「留置場でクラスター発生の警視庁新宿署 署員5人らも感染 計23人に」(2020年12月13日)

朝日新聞「新宿署の留置施設、新たに4人感染 男性1人が入院予定」(2020年12月16日)

東京新聞【東京コロナ速報・18日】消防総監が感染、新宿署では留置管理課の巡査長加え計22人に」(2020年12月18日)

●石岡警察署(茨城県)

【12月7日】40代の男性被留置者1名。県外陽性者の濃厚接触者であるとの本人の申し出を受け PCR検査実施、陽性確認。県警署員28名を自宅待機に。

朝日新聞「12人が感染 新型コロナ」(2020年12月8日)

茨城新聞「新型コロナ 茨城で12人感染 入院女性や警察署留置の男性」(2020年12月8日)

●葦合警察署(兵庫県)

【12月14日】少年被留置者1名。無症状。10日に保健所から「陽性者の濃厚接触者の可能性がある」と連絡、11日に PCR検査を行い12日に陽性確認。同日釈放。署員4名を自宅待機に。神戸新聞「留置場収容の少年が新型コロナに感染 治療のため釈放」(2020年12月14日)

朝日新聞「葦合署に留置の少年が新型コロナ感染、治療のため釈放」(2020年12月16日)

●下関警察署

【1月6日】20代の男性被留置者1名。12月末に東京での滞在歴があったため検査を実施、6日に陽性確認。山口県内の医療機関に入院した。捜査、留置業務で接触があった署員23名を自宅待機に。

朝日新聞「県内で新たに8人感染 下関署留置の男性も」(2021年1月7日)

毎日新聞「新型コロナ 下関などで8人が感染 県警留置場でも /山口」(2021年1月7日)

NNN「新型コロナウイルス容疑者の感染確認」(2021年1月6日)

●川越警察署

【1月7日】20代の男性被留置者1名。寄居署内の本部留置施設に移送。

埼玉新聞「<新型コロナ>8人死亡460人感染、ともに最多 忘年会、帰省で広がる 戸田中央総合病院は計225人に」(2021年1月7日)

●栃木県警察本部 鹿沼分室

【1月13日】20代の女性留置管理課巡査1名。同課職員ら10名を自宅待機に。

毎日新聞「新型コロナ 新たに4人が死亡 新規感染83人、県内計2699人 /栃木」(2021年1月13日)

下野新聞「大型商業施設が従業員の陽性公表 新型コロナ、栃木県警や自治体も」(2021年1月13日)

●戸部警察署

【1月15日】男性被留置者1名。15日に微熱があり検査で陽性確認。男性の取り調べ等を行った捜査員が14日に陽性確認。

ANN「神奈川・戸部署で留置されてる男がコロナに感染」(2021年1月15日)

*各日付は感染確認発表日

*警察署は被留置者に関連があると思われる事例のみ挙げた

2. 感染防止対策等

法務省は、2020年10月1日より、全国の法務省職員及び法務省施設の被収容者の新型コロナウイルス感染症の感染状況(施設ごとの人数のみ、詳細なし)をホームページに掲載している。情報は週1回更新。

*法務大臣閣議後記者会見の概要(令和2年10月2日(金))で発表

警視庁は、2021年1月15日、留置施設に収容する予定の全ての者に対し、逮捕後に任意でPCR検査を行う方針を発表した。陽性確認の場合は医療機関への引き継ぎや任意捜査を検討する。本人が同意しない場合は検査は行わない。

朝日新聞「警視庁、全逮捕者に任意のPCR検査 留置中の感染多発」(2021年1月15日)

読売新聞「逮捕した全容疑者にPCR検査、警視庁が実施へ…留置場クラスター防止」(2021年1月15日)



(福島刑務支所 K)

監獄映画ウォッチ

小池征人監督の映画「免田栄 獄中の生」を見て

「免田栄 獄中の生」（製作・配給：シグロ 1993年）

海渡 雄一（弁護士・監獄人権センター代表）

映画「免田栄 獄中の生」とめぐり会う

去る12月5日、免田栄さんが95歳で亡くなりました。免田さんの苦難に満ちた生涯を思い起こし、心からご冥福をお祈りいたします。

再審と死刑についての「西日本新聞」からの取材に答える中で、映画「免田栄 獄中の生」のことを知りました。

免田さんの「獄中記」（1984年 社会思想社刊）は読んでいましたが、映画は未見でした。アムネスティのホームページに詳しく紹介されていて、ぜひ見てみたいと私のフェイスブックに書いたところ、私が死刑再審に取り組んでいる事件について、長年支援をしてくださっている映画監督の山際永三さんが、この映画の製作に協力され、手元にビデオも保管されているとのこと、これをお借りして、見ることができました。

ひとことでいって、本当に素晴らしい映画でした。たくさんの監獄映画を見続けてきた私にとっても、この映画は、死刑や監獄について撮られた多くの映画の中でも5本の指に入るほどの名作であると断言します。

「獄中記」の記載も補いながら、免田さんの史上初の死刑再審無罪がどのようにして成し遂げられたのか、またこの時期の免田さんの同囚のなかにも、判決の結論が疑わしいものが多く存在したこと、そして、同囚の助け合いを可能にした死刑確定者に対する比較的自由的な処遇の実態などを振り返ってみたいと思います。

獄中から神父に送り続けられた1000通の手紙

いうまでもなく、免田栄さんは、死刑確定者の中で再審が開始され無罪となった最初の人でした。免田さんは昭和23年に23歳で逮捕され、代用監獄で激しい拷問を受け、虚偽の自白をさせていただきます。無実のアリバイを証明し、再審無罪となった昭和58年には57歳でした。実に34年6ヵ月の長い歳月を獄中で過ごしたことになります。

この映画は、免田さんが、獄中から潮谷総一郎神父に宛てて送り続けた千通にも及ぶ膨大な手紙を基礎として、潮谷総一郎神父との出会いから、

再審無罪までの年月を、免田さんに手紙を読み上げてもらい、自分の書いた手紙の内容に触発されてよみがえった獄中生活の記憶をそのままインタビューしていくという、独創的な手法で撮影されたものです。

当時の貴重な公文書も映されます。確定後に死体引き取りに関して刑務所から家族あてに送られた手紙には死体の引き取りをしないときには火葬代金700円を請求すると書かれていました。幻の西辻決定といわれた、史上初の死刑再審を認めた第三次再審開始決定（昭和31年8月10日）も、青焼きの謄本が保管されていました。

原則は免田さんがインタビューに対して答える映像だけの映画です。しかし、免田さんの表情の変化と巧みな語り口によって、眼前には数十年も前の免田さんと仲間の死刑確定者たちの生活が、よみがえるような奇跡的な映画となっています。

また、節目節目に挟まれる獄中で撮られた免田さんの写真は、免田さんの内面の思索の深まりを物語っていて、極めて効果的です。この写真が誰によってどのように撮影されたものかは映画の中では説明されていませんが、このような写真が撮り続けられていたこと自体が驚きです。

獄中で犬やカナリアを飼うことが許されていた

とりわけ私の目に留まったのは、未決の段階で、最高裁判決の3か月前に獄中で犬を抱いて撮影され



袴田巖さんの再審を求める集会で講演する免田栄さん（2014年1月）

ている写真、確定後に、執行の恐怖から獄中で暴れ、革手錠を打たれている免田さんの写真、確定後に死の恐怖と闘いキリスト教の信仰に目覚めたころの、うずくまって陰しい表情で何かを凝視している写真、第三次再審で再審開始決定を勝ち取り、そのお祝いに外国人神父から贈られた背広を着て撮影された写真（これは、素晴らしい写真で、お見合い写真にしたなら花嫁候補が殺到しそうなほど、美男子に撮られています）、獄中でカナリアを飼うことが許されていて、カナリアとともに撮影した写真など、本当にどれも驚くような貴重な写真が全編にちりばめられています。

再審請求を闘うために必要だった条件

免田さんは、キリスト教の神父が死刑確定者たちに再審という制度があることを教えたことがきっかけで、再審に取り組み始めました。角教育部長は、そんな免田さんに「頑張りなさい。私も手伝ってやる」とやさしい声をかけ、野紙数冊、鉛筆、石けん、タオルなどを差し入れてくれたことが獄中記には記されています（234頁）。

看守の配慮で、ある政治犯の独居に入れてもらい、六法全書と一緒に勉強しながら再審の書面の作成に取り組んだことも驚きです。この政治犯の方は、火炎瓶闘争で捕まっていた共産党の江口さんという方であることが「獄中記」には記されています。そして、潮谷神父は免田さんに聖書と500円を与えました。きちんとした用紙と筆記具を買いそろえるためでした（獄中記230頁）。

再審開始の決め手となった、証人の供述は、潮谷神父の依頼で小倉までその証人を探しに行ってくれた、全く見知らない人の努力のたまものでした。そして、弁護士費用は免田さんの父が財産を投じて資金を工面し、弁護士を選任することができたのです。

再審開始決定後の同囚の対応から、死刑確定者も自分と変わりのない人間だという認識にたどり着いた免田さんの死刑廃止論の重み

第三次再審で再審開始決定（幻の西辻決定）をもらい、狭い房の中を転がりまわって喜んだ免田さんは、次の瞬間には身構えます。「周りは死刑囚たち、自分だけの再審が開始されて、ねたんだ同囚たちに何をされるかわからない」と考えるのです。しかし、あくる日には、免田さんの再審開始決定を知り、喜ぶ確定者と被告人までが房から出てきて免田さんを胴上げしてくれたというのです。その中には涙を流して喜んでくれた確定者もいたということです。感激の涙を共に流した免田



「免田栄 獄中記」
免田栄 [著] / 青地晨 [解説]
社会思想社 刊 (1984年)

※現在は絶版。
amazon等で中古本は購入
する事ができます。

さんは、この日を境に仲間の死刑確定者たちに対する見方を変えます。自分の考え、死刑囚を野獣のように見ていた自分の考えは間違っていたことを悟り、彼らも同じ血の通った人間だと考えを変えたのです。

また、再審が開始され、それまで憎らしく思い続けてきた拘置所の幹部から、死刑執行をしなくてもよくなったことに感謝され、冷酷だと考えてきた職員にも同じ人間の血が流れていると知ったと述べています。

死刑確定者集会で「免田君 君の言っていたことは本当だったね。」と声をかけてくれた他の確定者が、それぞれの判決について漏らす疑問にも耳を傾け、その再審申し立てを助けるようになるのです。

「34年半の獄窓生活の中で、わたしが手をにぎって死刑台に見送った人びとは70人くらいだと思う。昨日も今日もというときもあったし、一日に二人ということもあった。死刑台に多くの人を見送っての結論は、やはり死刑はあってはならぬ、いうことである。国家による殺人は、あまりにも残酷だ」（獄中記304頁）

という言葉は、このような具体的な体験に支えられています。映画には克明に一人、一人の主張を記録されたメモが映し出されます。このメモの内容を詳しく紹介した「免田栄 獄中ノート—私の見送った死刑囚たち」が2004年に出版されています。こちらは普通に買い求めることができます。獄中記にもその中の10人ほどの印象が記されています。彼が見送った死刑囚の中にも、冤罪を訴えた人が少なからずいました。お金が続かず再審を諦めたり、再審が棄却されたあとに処刑されていきました。映画の中では獄中で最も親しくなった友人である死刑囚の処刑を見送った直後の神父に宛てた悲しい悲しい手紙も読み上げられます。

「獄中ノート」には冤罪を晴らした後も、社会の偏見に苦しめられた悲痛な体験、2002年にヨーロッパ評議会で開催された死刑廃止国際大会に出席した貴重な体験などもまとめられています。

えん罪を自らの力で晴らした死刑確定者が、数多くの死刑確定者と親交を結ぶ中でつかみ取った確信に支えられた免田さんの死刑廃止論には千鈞の重みがあると思います。

今日、この映画を弘めることには次の3つの意義があると思います。

この映画は、えん罪の恐ろしさとこれを晴らすことの難しさ、たくさんの人々の支えがなければ再審開始までたどり着くことは難しいこと、昭和38年通達前の死刑確定者処遇は、本当にのびのびとしていてカナリアが飼えたり、共同の活動がたくさん保障されていたこと、共同での運動が許され、皆で野菜を育てたり、野球することまでが許されていたことが語られています。

そして、再審無罪を勝ち取った本人から、無罪ではない死刑確定者に対する刑罰としても、死刑は残酷な刑罰であることが説得力をもって語られています。

この映画は、死刑確定者の命の大切さを語り、これからの死刑廃止のための活動に大きな根拠を与えてくれるでしょう。再審法改正の活動にも、大きな武器を与えてくれます。西辻決定に対する即時抗告が法的に許されなければ、免田さんは20年以上も早く自由を回復できたはずです。新たに開示された証拠が、この事件でも再審の決め手の一つとなっています。

さらに、死刑確定者の処遇を改善するための活動にとっても、かけがえのない武器となるでしょう。現状は昭和30年代と比べても、はるかに退歩した状況です。

各地でのさまざまな集會に合わせた上映運動や映画会社にお問い合わせしてDVD化や動画配信でも見られるようにできないか、この映画を弘めることを取り組んでみたいと感じました。ぜひ、ご一緒に取り組んでくださる方がいれましょう。

「免田栄 獄中の生」(1993年公開/1時間28分)

製作: シグロ

監督: 小池征人/製作: 山上徹二郎/演出: 小池征人/撮影: 清水良雄/録音: 滝澤修、久保田幸雄
音楽: 坂田明

1993年度(第48回) 毎日映画コンクール記録文化映画賞、日本映画ペンクラブノンシヤトリカル部門第1位、優秀映画鑑賞会推薦

※「シグロ」のホームページ

<http://www.cine.co.jp/detail/0050.html> より、VHS版が購入できます。また、上映会開催用に16ミリフィルムの貸し出しも行っています。

Letter from Prison 獄中から

■無期刑を科される意味

私自身、無期刑の判決が確定して約5年。現在に至っています。今年、刑務所で34年間服役した無期刑者の仮釈直前から釈放当日まで密着した番組を観ました。その中で90歳近くなる無期刑者が取材を受け「何の罪で入所しているのか」という質問に「さあ、何をしたのですやろ。何か悪い事でもしたのでしょうか」と応えている場面がありました。認知症です。

自分の犯した罪を忘れてしまい、償いをしているという事すら判らずに、ただ生きて此処に居るだけという痩せ細った老人を見て胸が痛み、辛さで涙が流れてしまいました。

被害者の方やご遺族の方にとっては「生きてるだけでも有り難いと思え」と言われて当然では有りますが、申し訳なくも「この様になるまで刑務所に入っている意味が有るのか」と思いました。これは無期刑では無く、終身刑と言う方が適しているとも思いました。(中略)

有期刑20年の時点で確定したのに法改正で30年に延びた後に確定した人と同じ扱いになるのは何故かと思っています。私は確定前に上告の手続きをしたところでしたが、有期刑が30年に改正されると仮釈も10年間延びるといふ弁護士の推測から改正前に確定した方が良いと判断し上告を取り下げました。当所に入所した時も改正前だったので25年近くの受刑と言われました。改正前に確定したのですから、それは変わらないと思っていました。しかし、改正直前に釈放される予定だった受刑者が改正された為に10年程延長になり、33年近くで仮釈になったと知り愕然としました。現在の無期刑受刑者の何割かの人が、この問題について不満や疑問を抱えているのだと思います。この先、法改正され有期刑が延びる可能性は皆無とは言えず、また日本には恩赦というものが有りながらも行われることは皆無であると言え、それを考えますと、現状のままでは終身刑化になるのは間違いないと思うのです。(和歌山刑務所 Y)

■無期刑だけの施設

年々予算を削られている為、食事の量、質と共に低下し、夕食に朝食の品が出る様になり、汁物すらも出なくなりました。もう何年もクリスマスケーキなんて食べていません。加えて、休日は巡回職員すらも半分に減り、点検、配食など1フロアが済んでから次のフロアという感じになっています。そんな中、突然のえんぴつ削りと色えんぴつ、えんぴつの使用中止。2/1以降は購入、所持すら出来なくなるそうです。なんでそうなったのか意味不明です。

私は無期なので、経理工場には行けず、職業訓練にもいまだに行けていません。いっその事、無期だけの施設が出来れば、とも思っています。

(大分刑務所 A)